

## 平島におけるドブネズミ対策実施状況（小笠原村）

## 1. 目的

近年、生息数が激減しているオガサワラカワラヒワの繁殖地である平島において、ドブネズミによるオガサワラカワラヒワの繁殖阻害リスクを低減し、オガサワラカワラヒワの保全に寄与するため、ドブネズミ根絶を目指した対策を実施する。

## 2. 対策状況（2022/11～2024/6）

これまでの主な対策状況を表1に示した。以下、詳細を示す。

表1 対策状況（2022/11～2024/6）

内容	2022年		2023年										2024年								
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
殺鼠剤散布	平島手撒き																				
	平島BS		※1																		
	丸島・二子島手撒き																				
	丸島・二子島BS																				
モニタリング	平島ネズミ																				
	平島オガヒワ																				
	丸島・二子島ネズミ																				
	平島土壌成分分析																				
合意形成	住民説明会																				

※1 オガサワラセセリ配慮エリアのみ先行してBS散布

※2 急傾斜地のみ手撒き散布：紙パックにスローパック（紙パック1個あたり100g程度）を入れて投下

※3 丸島・二子島のセンサーカメラをSIMカメラに変更

## (1) 殺鼠剤散布状況

- 平島では、令和4（2022）年12月から殺鼠剤散布を開始した。令和6（2024）年6月末までに手撒きによる全域散布を2回、ベイトステーション（以下、BS）による全域散布を4回実施した（表2、図1）。
- 平島の小属島（丸島、二子島）及び離岩礁では、平島へのネズミ類の再侵入防止のため、令和5（2023）年11月から殺鼠剤散布を開始した。令和6（2024）年6月末までに手撒き及びBSによる全域散布を各1回実施した（表2、図1）。

表2 殺鼠剤散布状況

散布時期	散布方法	散布内容	
		平島	丸島・二子島・離岩礁
2022/12/15～21	手撒き散布 （スローパック剤）	・467地点 ・散布量783kg（16.3kg/ha）	
2022/2/3～5	BS散布 （粒剤）	・150基 ・散布量75kg（0.5kg/基）	
2023/5/23～24	BS散布 （粒剤）	・152基 ・散布量45.6kg（0.3kg/基）	
2023/11/30 丸島 2023/12/1 離岩礁 2023/12/2 平島急傾斜地 2023/12/4 二子島	手撒き散布 （スローパック剤） 急傾斜地は紙パック 方式	・9地点（急傾斜地） ・散布量12.8kg （20.0kg/ha目安）	・丸島44地点、散布量132kg ・二子島80地点、散布量240kg ・離岩礁5地点、散布量27kg （40kg/ha目安）
2023/12/1～2	BS散布 （粒剤）	・174基 ・散布量52.2kg（0.3kg/基）	
2024/1/15～19	手撒き散布 （スローパック剤）	・642地点 ・散布量802.5kg（16.7kg/ha）	
2024/5/14 二子島 2024/5/15 丸島	BS散布 （粒剤：カビ予防のため コーヒー袋に封入）		・丸島11基、散布量3.3kg （0.3kg/基） ・二子島17基、散布量5.1kg （0.3kg/基）
2024/5/23～26	BS散布 （粒剤：カビ予防のため コーヒー袋に封入）	・170基 ・散布量51.0kg（0.3kg/基）	

## ( 2 ) 非標的種への配慮、海上流出防止対策など

### 1 ) オガサワラカワラヒワへの配慮

- ・オガサワラカワラヒワの飛来状況に応じ、手撒き散布時期を冬期とした。
- ・手撒き散布後、オガサワラカワラヒワが飛来する春期の前に、残っていたスローパックを可能な限り回収した。
- ・BS 稼働時の喫食リスク低減及び侵入防止策 ( BS 内部への金属カゴ設置など ) を実施した。これまでのカメラ撮影・BS 点検状況からオガサワラカワラヒワが殺鼠剤を喫食した形跡はない。

### 2 ) 植物、鳥類、昆虫類 ( オガサワラセセリ他 ) 陸産貝類などへの配慮

- ・各種の配慮方法について有識者から意見を伺い、移動時の主要ルート使用、踏付け防止等の配慮策を設定した。
- ・オガサワラセセリの主要生息地は配慮エリアとし、手撒き散布を実施せず、BS 散布のみとした。
- ・各種配慮内容について作業員に事前説明をした上で作業を実施した。

### 3 ) 殺鼠剤成分の土壤残留状況分析

- ・殺鼠剤成分ダイファシノンの土壤残留状況を把握するため、平島全域への手撒き散布前後に土壤分析を行った。その結果、土壤から殺鼠剤成分は検出されなかった ( 下限値 : 0.01ppm ) 。

### 4 ) 外来種対策

- ・外来種の侵入防止対策として、作業員への注意喚起、資材冷凍及びアルコール噴霧、衣類確認、靴底洗浄等を実施した。

### 5 ) 海上流出防止の対応

- ・手撒き散布時は船上から殺鼠剤流出の監視を行った。海上流出の確認はなかった。

### 6 ) 住民説明会の実施

- ・各年度において、手撒き散布開始前に母島にて住民説明会を実施した。

## (3) ネズミモニタリング結果

## 1) 平島のネズミ撮影状況

- ・平島では令和4（2022）年12月に20台のカメラを設置し、ネズミモニタリングを開始した。その後、令和6（2024）年1月までに再侵入リスクが高い地域などに7台を追加し、現在は計27台でモニタリングを継続している（図2）。
- ・令和4（2022）年12月24日から令和5（2023）年10月2日までの約10か月間、ネズミは撮影されなかった（図3）。しかし、同年10月2日から10月15日までの約2週間、3台のカメラで広範囲にネズミが撮影された（図4）。その後、令和6（2024）年7月23日までネズミの撮影はない。
- ・オガサワラカワラヒワのモニタリング用カメラ（林野庁設置）でも、令和4（2022）年12月の全域散布以降はネズミが撮影されていないが、前述と同時期の令和5（2023）年10月9日に1地点でネズミが撮影された（図4）。その後、令和6（2024）年5月21日までネズミの撮影はない。
- ・ネズミが再撮影された地点は主に沿岸部付近であり、沿岸部での海上流出に配慮した殺鼠剤の散布不足もしくは他島からの侵入の可能性があるが断定はできない（図4）。
- ・撮影されたネズミはドブネズミ成獣と推測されたが、画像が不鮮明のため断定はできなかった。

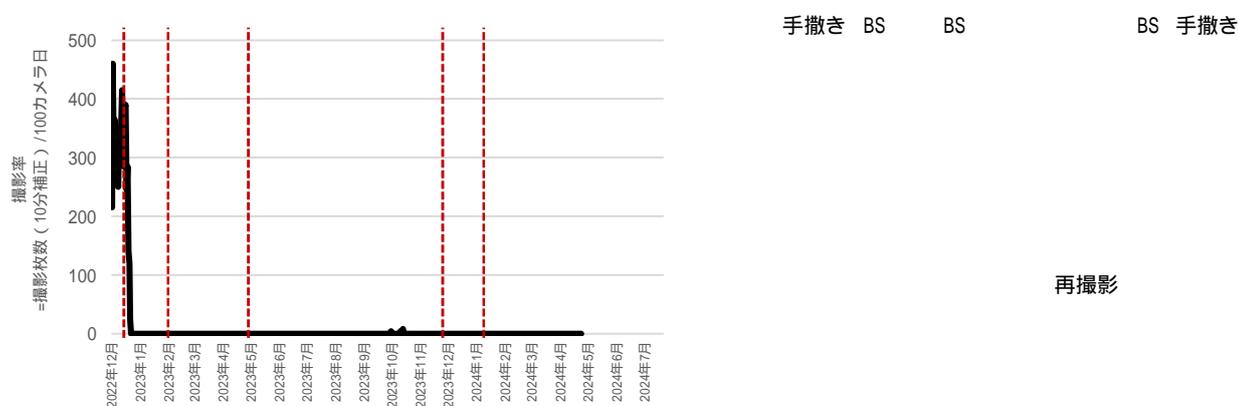


図3 平島のネズミ撮影率（2022/12/3～2024/7/23）

## 2) 丸島・二子島のネズミ撮影状況

- ・令和5（2023）年11月1日に二子島3台、11月2日に丸島2台のカメラを設置した（図5）。
- ・令和6（2024）年5月14日に二子島、5月15日に丸島で設置していたカメラを自動画像送信機能付きカメラ（以下、SIMカメラ）に交換し、遠隔モニタリングを開始した。
- ・丸島では令和5（2023）年11月30日、二子島では12月4日に手撒き散布を実施したが、どちらの島も散布5日後から令和6（2024）年7月29日までネズミの撮影はない（図6）。



図5 丸島・二子島のカメラ設置地点

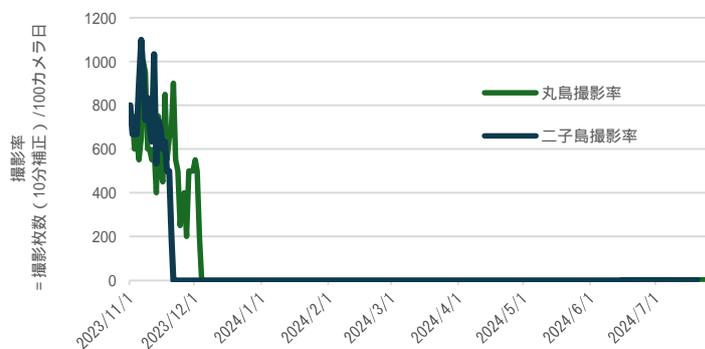


図6 丸島・二子島のネズミ撮影率（2023/11/1～2024/7/29）

## 3. 令和6年度（2024/7～2025/3）の対策予定

## (1) 殺鼠剤散布予定

- ・BS 散布を平島では3回（9月、11月、1月）、丸島と二子島では2回（7月、11月）予定している。ただし、実施時期はモニタリング結果等により変更する。
- ・ネズミが再確認された場合、連続して撮影が見られる（高密度化する）まで BS 散布で対応する。手撒き散布が必要となった場合、実施は冬期とし、その際は、環境省と相談して実施を検討する。

## (2) モニタリング予定

- ・平島でカメラ調査を3回（7月、9月、1月）予定している。
- ・丸島及び二子島は SIM カメラによる遠隔モニタリングを継続し、7月と11月に点検を行う予定である。

表3 令和6年度（2024/7～2025/3）の対策予定

内容		2024年						2025年		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
殺鼠剤散布	平島BS									
	丸島・二子島BS									
モニタリング	平島ネズミ									
	丸島・二子島ネズミ									

## 4. 令和7年度の対策体制案

- ・令和6年度中にネズミモニタリングにてネズミが確認されない場合、令和7年度の BS 散布は休止とする。
- ・令和7年度以降の平島及び小属島のネズミモニタリングは環境省で実施する。
- ・ネズミが再確認された場合の BS 散布、高密度化した場合の手撒き散布については、環境省が主導し実施する。